

本文：

2023 年 8 月 30 日

■+■-----
+■┐ 中部防災推進ネットワーク
メールマガジン Vol.35
■┐-----

各 位

中部防災推進ネットワークの参画メンバーの皆さまに、
メールマガジン（2023 年 8 月号）を配信します。

※メールマガジンのバックナンバー、これまでの会合の
発表資料等は中部防災推進ネットワークホームページに
掲載しています。

<中部防災推進ネットワークホームページ URL>
<http://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/kyoso/chububosai-nw.html>

1. 本ネットワークの参画団体のご寄稿

（1）事業継続推進機構

BCP、もう皆さん何だかご存じですね。
内閣府防災が 2021 年度に行った調査では、日本の大企業
の約 85%、中堅企業の約 52%が BCP を持っている
と回答しています。2005 年に日本の BCP ガイドラインを
作成した筆者としては、ここまで普及してくれたか
と感じていますが、まだ、中小企業への普及は道半ばです。

さて、BCP と言っても企業の業種・業態によって
異なります。一般的に BCP はどう作成すべきか、
については、内閣府防災のガイドライン、中小企業
庁のガイドラインをはじめ、各都道府県や各地の
商工会議所からの手

引き、さらには業界団体がそれぞれの業界向けに作成したガイドラインなど、様々な情報が提供されています。ただし、実際に企業の社長さんが、「わが社も BCP を作らなくては！」と一念発起して作成し始めても、具体的な詳細を詰めていくと、「わが社ではこのところはどうすれば良いのだろうか？」と迷うことが多々あります。経営コンサルタントの方に、しかるべきお金を払えば、色々とアドバイスはしてくれます。しかし、実際にどうすればよいのか、「ほかの会社はどうしているのだろうか？」と実例を知りたくなります。

2005 年当時、筆者は、当時としては先進的に BCP を策定し実践していた数多くの企業を訪ね歩いておりました。その際に「本日は、ご足労いただいたので、当社の BCP について特別に御説明しますが、わが社が BCP を持っているということは、決して口外しないでくださいね！」と釘を刺されることが多々ありました。まだまだ、BCP という言葉が市民権を得ていなかった時代です。

日本の企業、特に企業の総務や管理部門は、横並び意識が強く、「他社がやっているならば、わが社も検討しようか」という雰囲気があります。BCP を普及させたい立場の筆者としては、何とかこの BCP 策定を隠す風潮を打破したいと考えておりました。

そこで一計を案じて始めたのが、BCAO アワードです。NPO 法人事業継続推進機構 BCAO の発足とともに、優れた BC の実践例や普及活動に顕著な成果をあげている企業や団体等を毎年表彰する制度として開始したものです。

2006 年に始まり直近は 2022 年まで、17 年間継続しており、直近の BCAO アワードでは 13 の企業、団体、個人が表彰されています。これに表彰される大事な条件として、自社や団体の BC への取組を積極的に公表していること、また表彰を受けた際には、自社の取組を表彰式で説明することとしております。

17 年継続してきますと、実に多様な実践例が公表されています。

大企業から零細企業まで、製造業から社会福祉法人や学校法人まで。

あ、こういう業種ではここが BC の肝なのか！と気が付かされることが多々あります。また、BCP は一度作っただけでは意味がありません。

BCP に基づいて訓練や演習を行い、そこで気が付いた点にもとづき改善し、また、全社に定着させていくことが肝要です。

最新の BCAO アワード、こちらをご覧ください。

<https://www.npobcao.org/bcao%e3%82%a2%e3%83%af%e3%83%bc%e3%83%89/>

過去の BCAO アワードも同 website からご覧いただけます。

きっと皆様が南海トラフ地震に備える際の良いヒントとなるものと思います。また、わが社こそは、という方は、ぜひ、BCAO アワード 2023 にご応募ください。11 月には募集が始まります。

<事業継続推進機構 URL>

<https://www.bcao.org/index.html>

○文責（XXXXXXXXXX）

2. 本ネットワークの参画団体からのお知らせ (防災イベントの予定等)

(1) 中日新聞社

○イベント名

備える！中日サバイバルキャンプ

○開催日時

《プレ》2023 年 10 月 1 日(日)

《キャンプ》2023 年 10 月 21 日(土)～22 日(日)

※1 泊 2 日

○開催場所

《プレ》日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院

《キャンプ》鶴舞公園（雨天の場合変更）

○概要

『備える！中日サバイバルキャンプ』は、

みんなでいっしょに学べる、避難生活体験プログラム。
防災時の知識はもちろん、どんな状況でもたくましく
生き抜く知恵や力を、楽しみながら身につけることがで
きます。

もしもの時の「備え」を、自分たちの頭と体にしっか
りと刻み込む1泊2日。

○Web ページ URL

<https://chunichi-survival.com/outline.html>

3. 編集後記（事務局・協力団体のひとこと）

中部防災推進ネットワークの事務局をしております
日本損害保険協会の■■■■と申します。

今年度から勉強会の開催頻度が3か月に1回となりました
が、過年度と異なり、懇親会も開催できるような環境
になりましたので、勉強会や懇親会を通じて、顔の見え
る関係をより一層深めていけたらと思っております。
よろしくお願いいたします。

さて、今回は弊会の防災取組みを2つご紹介します。

1つ目は、ぼうさい探検隊です。

これは、2022年9月のメルマガでもご紹介しましたが、
防災・防犯・交通安全をテーマにして、小学生がまち歩
きしながら、気づいたことをマップにまとめて発表する
教育プログラムです。

毎年、全国約400～600の団体から応募いただいております。
弊会では、ぼうさい探検隊で得た地域の気づきを元に行
政等への要望・提言も実施しております。

2つ目は、防災・減災ピクニックです。

これは、福和先生にナビゲーターをお願いし、南海トラ
フ巨大地震などの自然災害について、親子で体験・体感
しながら防災・減災を学ぶことにより、家族の防災力を

高めるためのプログラムです。

これまではバスツアーがベースでしたが、今年度はプログラムを大きく変更し、名古屋大学博物館ツアー＋名大東山キャンパスピクニック＋福和先生のご講義という 3 本立てで実施しました。

子どもたちは、博物館の展示物はもちろんのこと、ピクニックで地層がむき出しになっている八事層を見て触ったり、減災館の免震装置を見学したりして、興味津々で参加してくれました。

ですが、やはり一番満足度の高いプログラムは福和先生の揺れの講義で、アンケートでは、「地震の怖さを実感した」「今の対策は甘いことがわかった」「備えなければと思った」という感想が寄せられ、親も子も、地震への危機感、備えの大切さを大いに実感していただけた結果となりました。

弊会では、引き続き、色々な機関・団体と連携しながら、防災・減災の取り組みを実施します。

皆様の団体でも、どのような防災の取り組みをされているかご紹介いただけますと幸甚です。

また、こういうイベントでコラボしようよ、といったお話などございましたら、ぜひお声がけください。

(日本損害保険協会 )